



テクノス通信

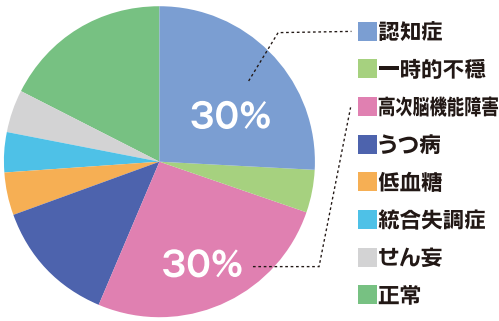
Nursing
～ナースिंग～

6月
vol.85
2016

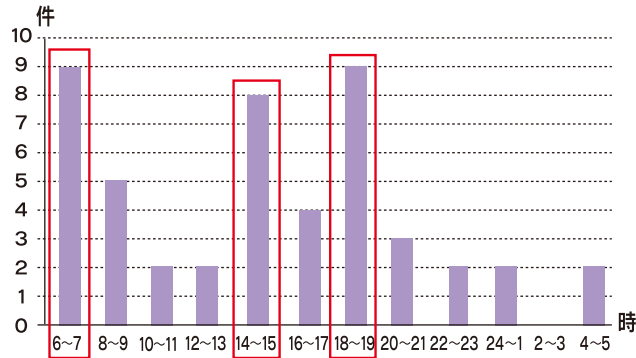
今月のテーマ 「病院・施設の離院・離棟問題について」

ある病院のデータをもとにご紹介いたします。

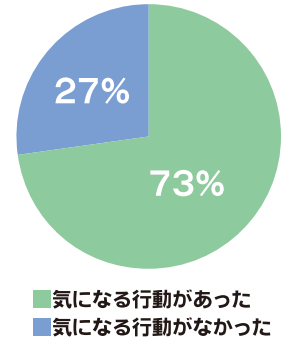
1. 患者側要因



2. 発生時間帯



3. 離院・離棟前の行動について



グラフはある病院で離院・離棟事例の集計をとったものです。離院・離棟を起こした患者は「認知症」と「高次脳機能障害」の患者が多く目立っています。また、発生時間帯はスタッフが忙しく、人手が手薄な時間帯に発生しており、病院や高齢者施設では患者、利用者の離院・離棟が大きな問題となっています。



○病院で行われている対策をご紹介

離院・離棟の恐れがある方の靴に蛍光テープを貼り、スタッフ全員で声掛け！

1人で歩いている患者の靴に蛍光テープ（黄色）が貼られているのを見かけたら、スタッフが患者に声をかけ医療安全管理者へ連絡する仕組みです。この取り組みは、予め会議やポスターで職員に説明し周知しています。



特徴を掲載したチラシを作成し、受付（医療事務）にも協力してもらい出入口でチェック！

受付に顔写真入りのチラシを作成、患者が離棟するのを見かけたら医療事務スタッフから直接声掛けをしています。

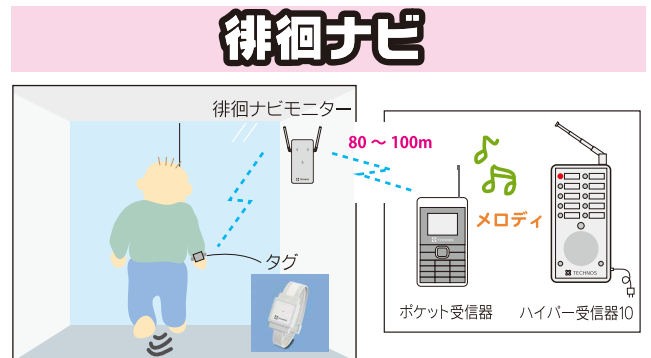


○テクノスジャパンの離院・離棟対策製品

3.のグラフを見ると、「気になる行動があった」と73%のスタッフが気づいているにも拘わらず、離院・離棟が起こってしまっているのが現状です。これは、患者がいつ、どのタイミングで離院・離棟するか予測できず、左記のような対策をとっていてもマンパワーの限界で100%回避することは難しいと考えられます。

テクノスジャパンには、離院・離棟対策専用の『徘徊ナビ』があります！

タグを付けた対象者が徘徊ナビモニターに近づくと専用受信器でお知らせ！



無料デモ機の用意がありますので、ぜひお試しください！